



1/14 (日) お笑い芸人と考える！ 男女共同参画フォーラム開催

ハーモニーセンターで「お笑い芸人と考える！男女共同参画フォーラム」が開催されました。
 演芸集団FEC演じる「あぎじゃび商店」では、笑いを通して男女の役割とは何かを問ひかけ、パネルディスカッションでは、沖縄キリスト教学院大学の新垣 誠 教授が進行役を務め、松本市長や浦添市女性団体連絡協議会の仲西会長ら5人のパネリストが、会場の皆さんと男女共同参画について考えを深めました。「時代と共に常識は変わる一人一人が個性を大切に、みんなで笑いあえる社会が実現できたらいいですね」というパネリストらの言葉に、会場の皆さんは笑顔でうなずいていました。



1/14 (日) ニューイヤーパーティー 笑顔で交流を楽しむ

国籍を問わずみんなで新年を祝おうと、国際交流協会主催のニューイヤーパーティーが、浦添市でだこホール市民交流室で行われました。
 子どもたちは福笑いやだるま落とし、玉入れゲームに夢中になり、みんなで力を合わせてついたお餅をおいしそうに頬張る参加者たち。パーティーの最後には、隣にいる人と手と手を取り合い軽快な音楽に合わせてリズムよく踊る姿があり、会場には終始、ハッピーな「笑顔(smile)」があふれ、参加者らは言葉や文化、年齢の違いを越えて交流を楽しみました。



12/22 (金) 伝えたい、個性を大切に

全国中学生人権作文コンテスト沖縄県大会伝達表彰式が市役所で行われ、入賞した8人に表彰状が授与されました。
 式では最優秀賞を受賞した山城実乃梨さん(港川中)と辺土百々花さん(港川中)が、「障がいは私の個性である」「自分が思っている普通はすべての人と同じとは限らない」という内容の作文をそれぞれ披露しました。
 作文を通して、人権とは何かを考え、人権は誰にとっても大切なものであり、一人一人の個性を大切にすることによって守られるものだと感じているようでした。



12/27 (水) 住みよいまちづくりは地域から

自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰伝達式が市役所で行われ、名護英治さん、我部政義さん、新里幸代さんに表彰状が授与されました。3人は長年にわたり、自治会の取りまとめや地域の発展に尽力し、その功績が認められ、今回の表彰となりました。
 浦添ハイツ自治会長を務める我部さんは「各自治会長や関係機関から協力と支援があつての表彰です。これからもより良いまちづくりを目指して地域全体で頑張っていきたい」と笑顔で語り、今後の活動に意欲を見せていました。



1/5 (金) 新年の門出を祝う

2018年新年祝賀会が浦添市民体育館で開催され、約1413人の参加者が市内外から集まりました。オープニングのかぎやで風や太鼓で会場は華やぎ、新成人や来賓のみなさんによる鏡開きの後、来場されたみなさんと共に声高らかな乾杯で、輝かしい年となることを願いました。
 松本市長はあいさつの中で「浦添市を沖縄一優しい福祉のまちにしていきたい」と抱負を述べ、参加者に浦添市のまちづくりへの理解と協力を呼びかけました。
 同日、浦添市消防本部では、安心安全なまちづくりへの誓いと火災予防意識を高めてもらうことを目的に出初式も行われました。



12/19 (火) 文化財にクバの木植樹

仲間のクバサー又御嶽(市指定史跡)で、その復元に伴いクバの木の植樹が行われました。
 クバサー又とは「クバの下」という意味で、クバの木には古くから神が宿るとされています。戦前のこの場所には御嶽を守るようにクバの木が茂っていましたが戦争によって焼失。クバサー又御嶽は、ウマチーなど年中行事を行う拝所であり、今も昔も地域の人たちにとって大切な信仰の場所となっています。
 子どもたちが植えたクバの木には、「当時の姿を取り戻し、地域の財産を後世に伝えたい」という地域の皆さんの願いが込められています。



12/17 (日) CGG運動で地域の絆深める

すべての地域住民の参加を目指したCGG(グリーン・グリーン・グレイシャス)運動が市内各地域で一斉に行われました。
 毎年恒例のこの運動は、清掃活動を通して地域の絆を深め、地域の子を守り育てる事を目的としています。今年も多くの方が参加し、それぞれの地域にある公園や道路のゴミを拾い、まちがきれいな花で彩られることを願いながら花の苗を植えこむなどをしました。
 清掃後、参加者らはきれいになった自分たちの地域を見渡し、満足げな表情で豚汁や沖縄そばを食べるなど、互いに労をねぎらい交流を深めました。

